

卒業式式辞

高知の地に春の訪れを感じる中、令和3年度の卒業式ならびに専攻科修了式を迎えることができ、嬉しく思います。ソーシャルデザイン工学科 156 名、環境都市デザイン工学科 1 名のみなさん、卒業おめでとうございます。そして専攻科 機械・電気工学専攻14 名、物質工学専攻 4 名、建設工学専攻 7 名のみなさん、修了おめでとうございます。

本校に入学してから今日の日まで、温かく見守ってこられました保護者のみなさま、お喜びもひとしおのことと存じます。誠におめでとうございます。

また、この卒業と修了は、日頃から本校の教育・研究・地域貢献活動を通じて、みなさんを見守っていただいた地域の方々のご理解とご支援があったからこそこの卒業・修了だということを心に留めてください。

今年度も昨年度と同じく新型コロナウイルス感染症への対応が大変な年でしたが、“学校へ通学する意義”は、友と交わることであり、“学校教育の本質的役割”は、時間と場所を共有することと考え、できるだけ対面授業を行うようにしました。

学校のイベントは思うようにいきませんでした。クラスマッチは中止し、学校祭は学外に解放せず学内のみで開催しました。

コロナに振り回されていますが、学校で身につけてほしい一番のことは、『生涯にわたって学びを続ける』という意識を持つことです。これからも、どのような学びの形態になろうとも、自ら学ぶ姿勢を持ち続けてください。

さて、卒業生・修了生のみなさんが踏み出して行かれる社会は、技術や情報が急速に高度化・多様化し、ダイナミックに変化する Society5.0 の社会です。この変化に即応できるよう、幅広い分野の知識・技術に触れ、その知識・技術を複合・融合できるハイブリッド型の人材として、みなさんを育成してきました。

具体的には、複数の専門基礎力を身につけることを目指してきました。理論も技術も頭だけの理解ではなく、使えるところまで身につけることを目指し、みなさんは、その目標を達成されました。

次に何が起こるか予測できない世の中で、この「基礎を身につける」ということが重要になってきています。この時代を切り拓き、イノベーションを起こせるのは、学んだ理論と技術を柔軟に応用できる人です。応用できるためには、基礎が身につけていなければなりません。基礎を身につけるためには、頭だけの理解ではない、実験・実習などの様々な経験を通しての理解が必要なのです。本校を卒業・修了されるみなさんが、その「基礎を身につけた人」に当たります。

現在、教育・人材育成のあり方を検討している政府のワーキンググループでは、「Society5.0 実現に向けた教育・人材育成」として、複数の異なる専門分野を同時に主専攻(メジャー)として学ぶ「ダブルメジャー」や、バランスの取れた文系と理系の学びの必要性を強調しています。

この議論の中のダブルメジャーの考えは、本校が学科再編により取り組んできたことです。

米国では、オバマ大統領のときに、IT 社会とグローバル社会に適応した人材を輩出する目的で、S、T、E、MのSTEM教育、すなわち、Science、Technology、Engineering、Mathematics の教育に力が注がれました。今、日本でも、このSTEMにArtsのAが加えられ、STEAM教育が提唱されています。すなわち、理系にも、リベラルアーツ的な素養として文系の発想が求められています。

また、文系には、社会に実装していく意識として理系の発想が求められています。つまり、両方の知識・技術をバランスよく身につけることが求められている、ということなのです。

みなさんはダブルメジャーの意識をもって本校で学んできたと思います。卒業後・修了後は自然科学だけではなく、人文・社会科学も含めて、多様な“知”を獲得するように、自分から動いてください。

また、社会の課題に気づき、その課題を工学的な視点で解決するため、専門の異なる学生がグループを組み、培った知識と技術を持ち寄り、チームで課題を解決する社会実装教育を通じて、「学んだことを実践で使う力」、「考え抜く力」、「話す力と聞く力」を鍛えてきました。

社会に出て必要な力を高専在学中から実践しておこうという狙いです。その、みなさんが向かう社会で待たなしの課題が感染症の問題と温暖化の問題です。

20 世紀の終わりごろからグローバル化が進行しました。グローバル社会とは、

人、モノ、カネが国境を越えて自由に行き来する社会である、と習ってきましたが、自由に行き来するのは経済・情報・文化だけではないことがわかりました。100 年前のスペイン風邪と比べるとウイルスが世界中へ拡散する速さは船とジェット機の差となって表れています。

この新型コロナウイルス感染症には、我々全員が、今、苦しんでいるので、世界中が、今、対応しようとしています、なかなか「自分の身に迫る問題」となっていないのが、地球の温暖化への意識です。世界の気温の上昇を 1.5 度に抑えなければいけないと言っている理由は何でしょうか。

地球の環境は、地球全体が凍ってしまう、海までも全部凍ってしまうような状況になることもあれば、南極にも北極にも氷のない地球全体が温暖になる状態も取ることができます。今の状況はその中間にある南極、北極に氷のある状態です。これらの地球環境の変動は数百万年よりも長いスケールで循環してきましたが、現在の温暖化は数十年のスケールでの変化を問題にしています。

昨年 8 月の国連の気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の報告書で、温暖化は人間の影響であることは「疑う余地がない」と断言しました。地球温暖化の被害は、いかに阻止できるかではなく、どれだけ減らせるかという段階に来ています。人間が異常気象といっている気象現象は、地球システムとしては異常ではなく、この上昇した温度では当然の気象現象ということです。

地球システムは、ある温度を超えると急速に上がり続けるという性質をもっています。そして、温度が上がってしまった地球は、なかなか元に戻らないという性質ももっています。例えば CO₂ 濃度が上がって暖かくなり、南極、北極の氷が溶けるような状況になると、そこから CO₂ 濃度が下がっても、なかなか地球全体の温度は下がりません。

今、地球システムは悪い方に転がり続ける境にあります。そんな危機的状況にあります。このとき、我々は何をすべきでしょう。

それは、将来を人任せにせず、自分の意思を示していくことだと思います。そして、我々が生きているこの時代は、一人一人の活動が地球規模の問題とつながっていると、常に意識して生活することだと思います。行動は待ったなしです。

さて、めでたく 182 名の学生諸君が本校を巣立っていかれますが、この高知高

専の地で築くことができた同級生の結びつきを大切にしてください。社会に出てもお互いに支え合い、生涯を通じての友達でいてください。また、学校へも顔を出して、話しをしに来てください。待っています。

これからみなさんが世界で活躍され、悔いのない素晴らしい人生を歩んでいかれることを祈念して、私からの式辞といたします。

令和4年3月15日

高知工業高等専門学校長
井瀬 潔